



NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会
(英文名略称・HANDS)
本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11
TEL & FAX:045-500-9151
E-mail: hands-mindanao@nifty.com
<http://hands-mindanao.a.la9.jp/>
郵便振替口座 00210-5-72693
(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

2016年10月25日発行

支援のあり方について考える：歴史を踏まえて

副代表：古川順一

1. 天皇皇后両陛下フィリピンご訪問

天皇皇后両陛下は、本年1月26日から30日にわたって、フィリピンをご訪問されました。いろいろな行事がありました。ここでは2点だけ紹介します。

①「比島戦没者の墓」(1973年、日本政府建立)訪問の前に、フィリピン「無名戦士の墓」に献花されました。約110万人のフィリピン人が亡くなったと言われていま

す。
②フィリピン日系人大会が、両陛下の宿泊ホテルで開催されました。両陛下は、フィリピン各地から集まった、残留日本人2世87名全員に、予定外の接見をなされました。年齢は70歳から87歳です。私たちになじみの深いミンダナオ島のダバオ市、コタバト市、またルソン島北部のバギオ市などから駆けつけました (NPO 法人 PNLSC ニュース 50号)。

2. フィリピン残留日本人

残留日本人とはどのような人なのでしょう。中国残留孤児という言葉は皆さんもよく知っていることと思います。戦後日本に帰国できなかった日本人の子どもたちです。今までに2,500人以上の孤児が、日本国籍を取得できました (NHK ニュース)。

フィリピンにも多くの残留日本人2世が存在します。旧日本兵と現地女性との結婚もありますが、フィリピンには、戦前から多くの日本人が働いており、フィリピン女性と結婚した事例も多くありました。そして、かなりの日本人が、マニラはもちろん、ルソン島北部のバギオと、ミンダナオ島のダバオに住んでいたのです。

そして戦後、旧日本兵はもちろんのこと、在住日本人も、妻子を残して強制退去させられたのです。また妻子を残し、現地で亡くなった日本人も多くいました。

残された妻子は、迫害を恐れ日本人であることを隠

し、フィリピン名を名乗って生きていきました。また山間部に隠れて生活する人もいました。出生証明書などを焼却したり、紛失した人が多いようです。日本政府の公式な支援もなく、NPOなどの支援で国籍取得を目指している現状です。「チボリ国際里親の会」の現地通訳の方にも残留2世の方がおりました。日本国籍を取得できた人は現在150名前後といわれ、わずかです。

3. シスター海野

両陛下に会いに来た2世のなかにはバギオ在住の人もいました。実はバギオにも多くの日本人がいたのです。その理由は別の機会に譲ることとして、戦後のバギオ日系人の救済といえば、シスター海野を忘れることはできません。私も、一度お目にかかったことがあります。

シスター海野の活動はいろいろあります。山に隠れた日系人を保護し、地位向上のために奨学金制度を設立しました。また、日系人のみならず、フィリピン人も貧困から救済するために、農業協同組合を設立しました。ここでは高原野菜やイチゴを栽培し、マニラに出荷しました (バギオ日本人会 HP)。私も購入しました。

4. 今後の支援方針

両陛下はフィリピン側戦没者の慰霊を日程に加えるよう希望され、「無名戦士の墓」での拝礼が設定されたそうです (宮内庁)。

両陛下の日比友好のお心を、限られた範囲ではありますが、本会も受け継いでいくことができたらと思います。

また、シスター海野が、残留2世の教育と生活向上が、彼らの未来を切り拓くと信じたように、本会も教育支援 (初等教育、並びに高等教育) 並びに農村開発に、一層力を入れたいと思います。